

水俣病対策

- 5月1日、水俣病公式確認から50年を迎えました。患者団体や地元団体、関係行政機関などと「水俣病公式確認50年事業実行委員会」を組織し、この1年、①犠牲者への祈り②水俣病の教訓を学び、伝える③もやい直しなどの事業に取り組んでいます。
- 関西訴訟最高裁判決(平成16年10月)以降、認定申請者が急増する中、県と県議会は5月、環境省に対して「平成7年の政治解決と同様の救済策を早期に講じること」などの要請を行いました。

川辺川ダムをめぐる取り組み

- 国土交通省は「球磨川水系河川整備基本方針」の策定に着手し、検討小委員会が4月にスタート。知事は委員に就任し、球磨川の治水対策をめぐる地域のさまざまな意見を踏まえ審議に臨んでいます。
- 国営川辺川土地改良事業の新利水計画については、これまで関係団体と協議を進めてきたところですが、地元の合意が得られておらず、水が必要な農家に対して早く水を届ける観点から、今後も国とともに対応して参ります。

「県政この1年」こんな事もありました

- 1月 ○「自主防災組織結成促進県民大会」を開催
- 2月 ○ユニバーサルデザイン(UD)を分かりやすく紹介する「くまもとUDフォーラム2006」を開催
- 3月 ○天草地域の2市8町が合併し天草市が誕生。県内の市町村数は48に
- 4月 ○県民主体の取り組みを支援する、熊本型県民連携事業(熊本型ゼロ予算事業)スタート
 - 「地域に生き、世界に伸びる」のスローガンの下、公立大学法人熊本県立大学がスタート
 - 残留農薬などの検査を集約・高度化した全国トップレベルの検査体制による、生産から流通までの各段階における食品検査がスタート
- 5月 ○自動車税のコンビニ納付がスタート
 - 「2006世界女性スポーツ会議くまもと」開催
 - 「南阿蘇えほんのくに2006～誕生祭～」開催
- 6月 ○県立農業大学校が専修学校資格を取得。4年生大学への編入学資格の取得などが可能に
 - 興亜海運、高麗海運の中国延伸により本県寄港のすべての国際定期コンテナ路線の中国延伸が実現
- 7月 ○すべての福祉サービスの質や内容を第三者機関が評価する「福祉サービス第三者評価制度」がスタート
 - 通学区域の拡大や学校の再編統合、中高一貫教育校導入などを含む「県立高等学校再編整備等基本計画」素案を発表
- 8月 ○3階建て鉄筋コンクリート造りのアパート、旅館、病院などについて「建築物中間検査制度」を導入
 - 県制作のハンセン病問題に関する啓発ビデオが法務大臣表彰最優秀賞を受賞
 - 「熊本県統合型防災情報システム」の土砂災害情報をリニューアルし、「土砂災害危険度情報」を提供
- 9月 ○病气やけがの時、今すぐ受診できる医療機関を検索できる「熊本県救急医療情報システム」を開設
 - 利用促進強化により、就航3周年を迎えた熊本～ソウル線の利用者が10万人を突破
- 10月 ○県道宮原五木線(八代市大通味工区)バイパス供用開始
- 11月 ○「くまもと教育の日」(11月1日)に伴う県民フォーラムなど約1,600の行事を開催
- 12月 ○新たにマンションリフォームを対象に加え、今年4回の県産木材プレゼントを実施
 - 若手建築家を対象に「くまもとアートポリス建築塾」を開催

「新幹線くまもと創り」九州新幹線の開業効果を県内全域につなげるため、「交流」「雇用」「定住」を視点に、県民や各団体とのパートナーシップのもと「新幹線くまもと創り」を進めています。十月には坪井川(熊本市)を活用した川下りが



坪井川で川下りに挑戦

5 未来に続く県土づくり

「障害者雇用応援団」発足 障害者雇用実績のある事業所が障害者を受け入れる事業所への助言や講師派遣などを行う「障害者雇用応援団」が九月に発足。十一月現在で十三事業所が参加しています。

また、利用者の就職に積極的に取り組む四つの福祉施設を指定し、企業訪問や職場実習などの取り組みを支援しています。【障害者いきいき就業】

「主要観光拠点へのアクセス向上」 自動車交通の熊本都市圏への集中を避けるため、熊本西環状道路や田迎木原線などの環状放射道路の整備を重点的に進めています。また、JR新水前寺駅と市電電停を結節する事業の地元説明会を開催するなど、公共交通との連携も含めた取り組みを進めています。

【熊本都市圏の交通円滑化】

「新幹線くまもと創り」 天草地域へのアクセス向上を目指し整備を進めている熊本天草幹線道路。三月に新一号橋を含む大矢野バイパスが整備区間に指定されました。現在工事中の松島・有明バイパス(約10km)は、来年夏までの供用開始を目指しています。

現在開通している松島有料道路



松島・有明バイパス完成間近 試行されるなど、新たな観光素材の発掘も進んでいます。十一月には関西・中国地方をターゲットに戦略を検討する「KANSAI戦略会議」を産・学・官連携で立ち上げました。【新幹線くまもと創り】

6 美しい熊本「環境立県」

「廃棄物適正処理の推進」 バイオマスの新たな活用策 植物や動物からつくられる、地球に優しい資源

公共関与の第一候補地決まる 「熊本県産業廃棄物公共関与基本計画」に基づき取り組んできた公共関与による管理型最終処分場の整備について、三月に建設候補地八カ所の中から南関町の候補地を第一番目に建設する個所として決定し、南関町に協力を要請しました。

交通ネットワークの充実に向けて 三月、宅地化が進むJR豊肥本線沿線の武蔵ヶ丘東地区に「光の森駅」を整備。また、八月にバス事業者、県、熊本市などで組織する検討会議を開催し、利用者の視点に立ったバス路線の再編に向けた協議を行っています。平成十二年三月に就航した天草エアラインは、四月に搭乗者が五十万人を突破。天草～福岡一日四便を生かし、さらなる利便性の向上に努めています。

【都市圏・地方公共交通ネットワークの整備】

「有明海・八代海水質保全のための生活排水処理の強化」 初めでの地域開催として、八代市で開催しました。

水質悪化の原因の一つである生活排水対策として、流域下水道や合併処理浄化槽などの整備を着実に進めています。また、県民意識を高めるため、海や川の県内一斉清掃活動を実施。十一月には「県民大会」を

「バイオマスの有効活用」 水とみどりの森づくり 「水とみどりの森づくり税」を活用し、適切な管理が見込めない森林に対し、強めの間伐による水源かん養などの森林機能の保全や、森林ボランティア活動への支援、里山林の再生、学校林の整備などに取り組んでいます。【みんなで支える水と森づくり】

豊かな有明海・八代海の再生



「有明海・八代海水質保全のための生活排水処理の強化」